【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成30年2月1日(2018.2.1)

【公表番号】特表2017-503557(P2017-503557A)
【公表日】平成29年2月2日(2017.2.2)
【年通号数】公開・登録公報2017-005
【出願番号】特願2016-539940(P2016-539940)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　5/00　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/01　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/0408　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/0478　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　5/0492　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　5/00　１０２Ｚ
Ａ６１Ｂ　5/00　１０１Ｄ
Ａ６１Ｂ　5/00　Ｂ
Ａ６１Ｂ　5/04　３００Ｊ

【手続補正書】
【提出日】平成29年12月15日(2017.12.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
信号を生成する１つ以上のセンサを有する栄養チューブを用いた人間又は動物への食物又は薬剤の投与中の誤アラームを阻止又は抑制するシステムの作動方法であって、
前記システムにおいて、
前記食物又は薬剤が投与されているかどうかを決定するために、前記信号を解析するステップと、
前記食物又は薬剤があると決定されると、アラームを阻止又は抑制するステップと、
を含む、方法。
【請求項２】
前記栄養チューブは、少なくとも２つの温度センサを有し、異なる温度センサによって記録される温度の差が、前記食物又は薬剤が投与されたことを示す、請求項１に記載の方法。
【請求項３】
１つの温度センサがあり、前記１つの温度センサによって記録される温度は、栄養供給が生じたかどうかを決定するアルゴリズムと比較される、請求項１に記載の方法。
【請求項４】
任意の温度変化の速度及び程度は、栄養供給が生じたかどうかが決定されるアルゴリズムによって解析される、請求項３に記載の方法。
【請求項５】
前記１つ以上のセンサは、前記食物又は薬剤が投与されているかどうかを示すインピーダンスの変化を感知する２つ以上の電極である、請求項１に記載の方法。
【請求項６】

前記信号は、アラーム信号を生成するプロセッサ、モニタ又はコントローラによって解析される、請求項１に記載の方法。
【請求項７】
前記１つ以上のセンサは、温度、圧力又はキャパシタンスといったパラメータの変化を感知する、請求項１に記載の方法。
【請求項８】
前記栄養供給に関する詳細が記録される追加ステップを含む、請求項１に記載の方法。
【請求項９】
投与の時間及び長さが記録される、請求項８に記載の方法。
【請求項１０】
前記人間は、新生児である、請求項１に記載の方法。
【請求項１１】
人間又は動物に、食物又は薬剤を投与するための栄養チューブと、
特定の所定パラメータ範囲が超過された場合に、アラーム信号を生成するプロセッサ、モニタ又はコントローラと、
を含み、
前記プロセッサ、モニタ又はコントローラが、前記食物又は薬剤が投与されていることを認識し、これにより、任意のアラームを阻止又は抑制する、システム。
【請求項１２】
前記人間は、新生児である、請求項１１に記載のシステム。
【請求項１３】
前記プロセッサ、モニタ又はコントローラは、栄養供給の詳細を記録する、請求項１１に記載のシステム。
【請求項１４】
前記プロセッサ、モニタ又はコントローラは、投与の時間及び長さに関する詳細を記録する、請求項１３に記載のシステム。